

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年10月4日(木) 午後7時～8時35分
会 場 大原自治会館(大原自治会)
天 気 くもり

参加者 37人

主な意見等(◆・・・参加者 ☆・・・市長)

- ◆自主防災組織とは何か。私たちには情報がまったく知らされていない。活動率72%ということだが、どんな内容なのか。
- ☆自治会組織の中での役割分担として、防災関連を担う組織である。72%という数字は、ふじみ野市内全域において、組織はあっても資機材が揃っていなかったり、資機材はそれなりにあっても組織が固まってないなど、様々な状況がある中、きちんと機能している組織率を表している。
- ◆私たち市民がその存在を知らされてなくて、きちんと機能していると言えるのか。
- ☆これまでの流れの中では、自主防災組織についてクローズアップされてこなかった。やはり、東日本大震災後において、状況が変わった。自助・共助・公助という大きな意識変革の中で、地域における自主防災組織の役割が重要視されてきた。この状況下において、今後は更に行政としても自主防災組織の充実について推進していきたい。
- ◆自治会の役員も高齢化してきている中、行政としてどんな支援をしてくれるのか。
- ☆積極的にサポートしていきたいと考えている。人間関係の繋がりが希薄になってきている昨今の状況を変えていくには、まずは組織率を上げ、地域力を付けていくことが一番重要だと思っているので、行政としてもアプローチの仕方を変えている。具体的には、転入者などに対する役所の窓口の対応として、以前は自治会組織への加入を問われても、任意であるという答え方をしていたが、現在は、できれば加入してくださいというかたちで、加入を勧めさせていただいている。大原自治会の組織率は51.4%ということで、良い方だと思う。市内全域を見ると、3割程度の組織率の所もある。これからは、自主防災組織の充実が重要なポイントになってくると思うので、市はその活動を促すこと、組織率を高めることについて精一杯サポートしていきたい。
- ◆3.11の翌日、図書館と公民館を利用する予定になっていたところ、図書館からは利用できない旨の連絡があったが、公民館からは一切その連絡は無かった。図書館の人に確認し公民館も使えないことが分かったが、図書館の人から連絡が来なければ、公民館に行ってしまうていた。職員の対応がまったくなくなっていない。

☆担当もあの混乱の中、一生懸命やっていたと思うが、そういった不備があったのなら申し訳なかった。

◆職員の人数を経費削減を理由に減らしているからこんなことになるのではないか。きちんとした人数配置をしていればこんな事は起こらないはず。市民の命と暮らしを守るための必要な職員は雇うべきではないか。

☆108,000人の命と暮らしを守るために、十分必要な職員数を有している。

◆大原公園前のスクールゾーンについて、近隣の方からとても不安だという声が上がっている。通学時間帯は車の通行止めをして欲しい。

☆道路交通法で定められている分野なので、市で対応できる部分ではないが、今、市内全域でゾーン30という取組みを進めている。時速30キロで走行しなければいけないという規制を、道路の状況をよく精査し実施している。危険を回避するための取組みである。

◆一人暮らしの高齢者の方が、緊急時連絡システムに登録をお願いしたところ、疾患が無いとダメだと言われたらしい。骨を折ったりすることが始終あっても、疾患がないとダメというのは、70歳を過ぎた一人暮らしの高齢者にとってはとても不安で仕方がないのでは。

☆必要な人に必要な措置を講じていきたいが、様々な方々の状況にすべて行政で対応することは難しいと考える。歩行可能な高齢者の方は119番通報もご自分で出来る状況ではないかと思う。あの緊急時連絡システムは、そのようなことが困難な人に対する仕組みである。一定の基準が設けられていると思うので、詳細は後日、連絡させていただく。

◆防災に関する説明会などに行くと、自分でまず身の安全を確保してくれ、何日か分の必要最低限の範囲で食糧も備蓄してくれと言われる。自分の命を守るための手段だと言われた。このような準備は行っているが、一番怖いのは火災と思う。テレビを見ていたら、震災時に自動でブレーカーが落ちる仕組みを紹介していた。防災グッズの中にも、自分でブレーカーを落とす道具があることも知ったのだが、どこで販売されているのかネット等で調べてもよく分からない。ブレーカーを各家庭で落とすことが、火災を防ぐ方法だと言うのなら、是非そのことに力を入れるべきではないかと思う。私は自分で工夫して、ひもを引くとブレーカーが落ちるようにしている。

☆家が倒壊する恐れなどがあり家を出て避難する際など、ブレーカーを落としてから逃げることは、大変有効な手段だと思う。今のお話の中で大変重要なことが3つあった。一つ目は、やはりブレーカーの件である。震災時、一番怖いのは火災である。住宅密集地は本当に危険である。あらゆる想定の中で、消火活動ができなくなる恐れもある。二つ目は食糧の備蓄関係である。このことは必ずどこのタウンミーティングでもお話しているが、行政でも限られた予算の中、適正な配分を考え、今年度も防災対策予算を組んでおり、食糧備蓄予算も取っている。具体的には3日間を何とか凌ぐために、1日は県で、2日目は市でという役割分担の中、3日目は皆様のご家庭においてストックされている食糧を充てる計画となっている。お米などを購入するタイミングとして、無くなる寸前に調達するのではなく、少し余裕を持ってストックしておいていただくことにより、各家庭での備蓄食糧が確保されるということである。これを循環備蓄と呼ぶらしい。非常時には、みんなで力を合わせて困難な状況を乗り切ることになると思うので、皆様のご家庭にあるお米や野菜、保存食の持ち寄りもお願いすることになる。

それから、災害はいつ起こるかによって被害想定がかなり変わってしまう。夏なのか冬なのか、朝なのか昼なのか夜なのか深夜なのか。その時々に応じて安全な場所は違ってくと思う。冬の夕飯時であれば延焼の危険性が高まる。そんな時に避難所方面から火の手が上がっていけば、当然、避難所よりも身近で安全な場所に逃げるのが何よりも大切である。いざという時、避難所である上野台小学校を一目散に目指すのではなく、様々な状況においてまずは一番身近な安全な場所に身を移すということを頭に入れておいて欲しい。避難所はあくまでも自宅に戻れない時に、ある程度落ち着いてから向かう場所という認識をしておいて欲しい。それから、震災が起こる時間帯や季節により様々な状況が想定されることと併せて、自宅に居るときに必ずしも被災するとは限らない。どこで被害に遭うか分からないが、とにかく身近な安全な場所に逃げ、大切な命を守って欲しい。地域においてどこの場所が安全なのかなど、折に触れ、地域の皆さんで話し合ってもらい、共通認識を高めていって欲しい。イトーヨーカドーも協定を結んでいるので、敷地内に逃げ込むことも可能である。

- ◆大原地域には狭く行き止まりになってしまっている道路が多数ある。災害時のことを考えると、とても怖い。段差もたくさんあり、照明も少なく暗いため、高齢者などはつまずく例がたくさんある。道路の安全点検をしていただき、逃げ道の確保をしてもらいたい。また、あの段差では、車椅子の方には非常に気の毒なので、早急に対応してもらいたい。

☆かつて人口が急増した時期に、道路整備よりも住宅が建設されるスピードの方が上回ってしまった結果として、今のような状況をつくってしまった。市内の道路状況を考えると、この地域だけでなく対応しなければならぬ箇所がたくさんあるため、順次、状況を確認しながら対応していきたいと考えている。

- ◆学校給食が自校方式であれば災害時の炊きだしなど容易にできると思うが、ふじみ野市はセンター方式をとっており、その一つは民間に任せようとしている。そんな状況で炊きだしのことなど、どう対応していこうと考えているのか。

☆炊きだし対応については、自校方式でもセンター方式でも通常の給食事業とは別の経費がかかるものである。同じように経費をかける中、民間で対応するメリットとしては時間的な制約(24時間フル稼働も可能)が無く、事情に応じた臨機応変な対応ができることなど、様々なメリットが見いだせると考えている。

- ◆ハード面は行政でやってもらうとして、ソフト面の充実は私たち市民も自ら取り組まなければならないと考えているが、そういう中でも市からの援助はとても必要である。自助へのアプローチは行政の仕事であるので、ボランティア精神旺盛な市民に市報などを通じて啓蒙・啓発を行って欲しい。ソフトウェアの整備が重要である。若年層へのアプローチも必須である。災害時はみんなで力を合わせて乗り切っていくという意識を持たせるためのアプローチをお願いしたい。

☆地域で暮らしている人たち品同士の意識の共有はとても重要である。共に意識を高めていくことが大事。自助・共助という中で、無事に生き残るための手段・方策について、自治会単位の会合を頻繁に持っていただき、そこに行政も入らせてもらい、有効な情報提供や必要な援助をさせていただきたい。

- ◆実態として、子ども達の防災意識がとても薄い感じがする。学校現場においてもっと防災意識を高める取組みをしてもらえば、その子達が自宅に帰り家庭での話題になったりする効果もあるはず。もっと、教育委員会も防災に対するアプローチが必要ではないか。

☆貴重なご意見だと思う。